

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	地域観光論		
担当者(Instructors)	宮本 佳範	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

現在日本は、“観光立国”の実現に向けて取り組んでいます。そのためには、国としての取り組みはもちろん、各地域が新しい魅力や楽しみ方を提案していくとともに、多様化する観光者のニーズを的確にとらえて対応していくことが必要となります。そこで、本講義では、観光振興に向けた日本各地の取り組み事例（主に成功事例）を幅広く知り、観光振興の成功の秘訣、これからの観光振興の方法などを考えてもらいます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義およびグループワーク（プレゼンテーションを含む）を併用します。グループワークは、グループ毎にテーマを決め、調べ、発表する流れで行います。パソコンを使用します。原則すべて対面ですが、7回を超えない範囲でメディア授業を取り入れる場合もあります。また、受講者数により、下記の内容は若干変更する場合があります。詳しくは初回のガイダンス時に説明するので必ず出席すること。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	本講義で何を学ぶのか、概要を説明する。	<input type="checkbox"/>
第2回	なぜ、今、観光か。	なぜ、今観光に熱い視線が注がれているのか、その理由を解説する。	<input type="checkbox"/>
第3回	地域と観光振興	地域が観光振興のメリット、可能性などについて解説する。	<input type="checkbox"/>
第4回	温泉の活用と地域づくり(1)：客層の変化と再生	温泉観光地振興の成功事例等を紹介する。	<input type="checkbox"/>
第5回	温泉の活用と地域づくり(2)：新たな取り組み	温泉観光地で行われている新しい取り組みの事例を紹介する。	<input type="checkbox"/>
第6回	ゆるキャラと観光振興	ゆるキャラは今や観光資源の一つになるくらい人気です。その成功事例を学びます。	<input type="checkbox"/>
第7回	歴史的町並みをいかした観光まちづくり	歴史的町並みを生かした街づくりの事例などを紹介する。	<input type="checkbox"/>
第8回	クール・ジャパン戦略と観光(1)	今、世界から注目されているアニメなどを生かした取り組みを紹介する。	<input type="checkbox"/>
第9回	クール・ジャパン戦略と観光(2)	今、世界から注目されているアニメなどを生かした取り組みを紹介する。	<input type="checkbox"/>
第10回	グリーンツーリズム	農村の活性化につながる可能性を秘めたグリーンツーリズムについて解説します。	<input type="checkbox"/>
第11回	事例発表準備(1)	グループ分け等、事例発表に向けた作業をします。	<input type="checkbox"/>
第12回	事例発表準備(2)	受講生による事例発表のための準備をします。	<input type="checkbox"/>
第13回	発表(1)：前半グループ	受講生に観光振興の事例を発表してもらいます。	<input type="checkbox"/>
第14回	発表(2)：後半グループ	受講生に観光振興の事例を発表してもらいます。	<input type="checkbox"/>
第15回	復習と小テスト	地域と観光振興の意義について全体をふりかえり、小テストを行う。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

講義の予習・復習および発表準備などを各回あたり4時間程度行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業中のレポートおよび発表はその都度講評する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	自ら主体的にグループワークに参加し、協力して作業をすることができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 授業内試験(40%)は、プレゼンテーション(20%)および小テスト(20%)です。ただし、受講者数が多く発表に時間がかかる場合は小テストは実施せず、プレゼンテーション(40%)で評価します。その他(60)は、授業のまとめのレポートやグループワークへの積極性などによる総合的な評価です。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		